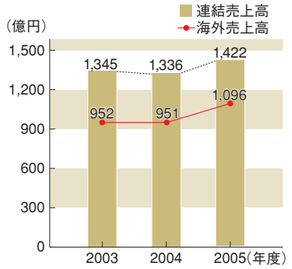
企業概要

会社概要

社　　名：ペンタックス株式会社
英 文 名：PENTAX Corporation
創　　立：1919年11月
代 表 者：取締役社長　浦野文男
資 本 金：75億1000万円（2006年3月末現在）
事 業 所：本社（東京）、益子事業所（栃木）
営業拠点：札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
海外拠点：販売／アメリカ、カナダ、ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、シンガポールなど
　　生産／香港、中国、フィリピン、ベトナム

売上高



事業内容（2005年度）

オプティカルコンポーネント・その他事業

デジタルカメラモジュール、
携帯電話用デジタルカメラモジュール、微小レンズ、
レーザー・スキャニング・ユニット、
監視カメラ用レンズ、ビジネスシステム機器、
測量機器

デジタルカメラ用レンズモジュール

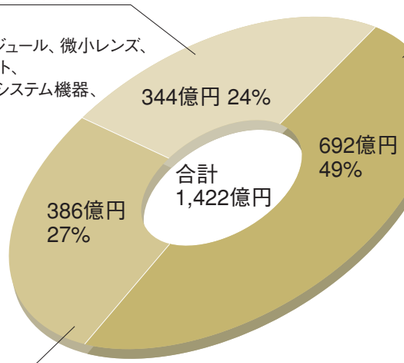
DVD／CD互換ハイブリッドレンズ

ライフケア事業

内視鏡、
メディカルアクセサリー、
骨補填材、充填剤

医療用電子内視鏡

内視鏡用バイポーラ止血鉗子



イメージングシステム事業

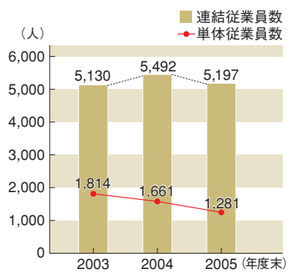
デジタルカメラ、銀塩カメラ
交換レンズ、中判カメラ
アクセサリー、双眼鏡
天体望遠鏡

デジタル一眼レフカメラ
*ist DL2

コンパクトデジタルカメラ
Optio A10

グループネットワーク

従業員数推移



目次

企業概要 — 1
トップメッセージ — 3
ペンタックスのCSR — 4

■ 環境マネジメント
環境理念・環境方針 — 5
環境活動推進体制 — 6

■ 環境パフォーマンス
ペンタックスグループ環境活動重点項目・活動結果 — 7
環境保全のためのさまざまな活動 — 11
環境コミュニケーション — 12

■ 製品への取り組み
製品開発における環境配慮 — 13

■ 環境会計
環境会計 — 15

■ グループ全体の取り組み
各社の活動状況 — 17

■ 企業活動における社会的側面
コーポレート・ガバナンス — 20
コンプライアンス — 21
安全保障輸出管理 — 22
情報セキュリティの取り組み — 23
製品の品質に関する取り組み — 24
情報開示・危機管理 — 25
労働安全衛生の取り組み — 26
社会貢献 — 27
写真文化の発信 — 28
雇用・人権 — 29

第三者意見　社外からの評価 — 30
沿革　編集後記 — 30

表紙について

写真は、2005年6月、環境省提唱の「環境月間」に歩調を合わせて、ペンタックスグループで開催したフォトコンテスト作品です。

・本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン2003年版」を参考としています。
・環境会計は、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考としています。
　また、ペンタックスの環境保全活動に沿った分類を取り入れました。

トップメッセージ

for your precious moments
あなたの大切で貴重な瞬間のために

近年、経済活動のグローバル化、インターネットの普及に代表される情報化の進展、社会情勢の多様化、国内外を問わず発生した企業不祥事などを背景に、企業の社会的責任（CSR）に対する関心が急速に高まっています。健全な事業活動を通じて経済的責任を果たしていくことは経営の基本ですが、それだけでは社会的責任を果たしているとはいえません。現在の企業に求められているのは、業績の向上はもとより、CSR重視の姿勢であります。

CSRの重要なテーマの一つである環境活動は地球温暖化防止のための国際的な取り組みである京都議定書の発効や、2006年7月に欧州連合（EU）で施行される特定有害化学物質使用制限（RoHS指令）対応など今後、環境規制は世界的に強化されるのが確実です。

ペンタックスグループは、全社的な環境活動を展開して実効性をあげていくためにグループ一体の推進体制を構築し、毎年グループの環境活動重点項目を策定して、段階的かつ継続的に環境改善に取り組んでまいりました。その結果、地球環境への影響に関する諸指標は各年度目標に対して、着実に改善効果を上げております。

2006年度の重点項目としては、1）CO_2排出量の削減、2）廃棄物の削減、3）グリーン調達の促進、4）製造工程使用化学物質管理の促進、5）環境負荷低減製品開発の促進を掲げております。

ペンタックスは、社会にとって必要不可欠な企業であり続けるために、企業スローガンとして「for your precious moments＝あなたの大切で貴重な瞬間のために」を掲げ経営を行っております。

どんなに世界的な発明や発見をしたとしても、使う人にとって役立つことや、うれしいことがなければ意味がありません。大切なのは、科学的な視点と日常生活的な視点を併せ持つことです。そうしたモノをこれからもたくさん創っていきたいと思っております。

環境以外の品質、コンプライアンス、情報セキュリティ、雇用・人権などの重要なCSRテーマにも積極的に取り組み、今後もステークホルダーの皆様からの信頼をいただき、社会に貢献できる持続可能な企業を目指してまいります。

2004年に環境活動の内容をとりまとめ、「環境報告書」を発行いたしました。2005年には社会的側面も取り入れた「環境・社会報告書」として発行し、会社情報を適時適切に開示して誠実で透明性の高い情報開示に努めてまいりました。

このたび「環境・社会報告書2006」を通じて、ペンタックスグループの2005年度CSR活動の成果と今後の取り組みを皆様にご報告いたしますので、今後とも、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　浦野文男

ペンタックスのCSR

当社のCSRは、経営理念の一つである「共存共栄」をCSRの考え方のベースとしています。そして、様々なステークホルダーとの「共存共栄」を通して、当社ヴィジョンの一つである「社会的に信頼され尊敬される会社」を実現することを目的としています。CSR活動は、2003年7月にCSR委員会を発足させることにより、活動の充実を図りました。企業に求められる社会的責任は絶えず変化しているため、常にステークホルダーの視点に立ったCSR体制を維持すべく多岐にわたったテーマに取り組んでいます。

経営理念

1．相互信頼　2．共存共栄

7つのVision

1. ブランド力のある会社
2. ヒット商品を生み出す会社
3. 価格競争力のある会社
4. お客様が望むものを望む時に、提供できる会社
5. **社会的（お客様・取引先・地域・株主）に信頼され尊敬される会社**
6. 自己実現が出来、その成果が報いられる会社
7. 常に成長力と高収益にチャレンジする会社

CSR推進体制

2005年7月に「CSR委員会」の組織名称を「CSR推進委員会」と変更のうえ、社長を委員長として当社のCSR活動全体をより強力に推進・統括する横断的組織としての位置付けを明確にしました。さらに、CSRの主要なテーマとして個々に組織活動を展開している「環境委員会」「コンプライアンス委員会」「安全保障輸出管理委員会」「情報セキュリティ推進プロジェクト」をCSR推進委員会の下部組織とし、「CSR」という共通するキーワードをもとにその位置付けと役割を明確にしました。

主要な関係会社にはCSR推進担当部署を設け、各社の状況に応じたCSR活動の展開を図るほか、その他の関係会社においても、本社の主管組織による強力なバックアップ体制をとり、ペンタックスグループ全体でのCSR活動を推進しています。

CSRの取り組み

主要テーマの他、CSR活動の取り組み状況としてメーカーの生命線とも言える製品の品質については、品質管理部が主体となって製品機能と品質の向上のために、製品の開発設計の段階から様々な施策を講じ、お客様に安心してお使いいただける製品を提供するように努力しています。

労働安全衛生については、総務部が事務局となって安全衛生委員会を運営し、労災事故の防止や職場環境改善、従業員の健康づくりを主要課題として活動しています。雇用・人権については、従業員一人ひとりの人権や個性・価値観を尊重し、能力が最大限発揮でき、やりがいのある職場環境づくりを目指して、人財開発部において様々な人事処遇制度の制定や教育・研修の機会を提供しています。

今後もより一層充実したCSR活動を目指し、さらなる企業の社会的責任要請に応えるべく活動を推進していきます。

環境理念・環境方針

ペンタックスは、経営理念を基礎として1996年4月に「環境理念」を制定しました。更に、「環境理念」を踏まえ、環境に対する基本的な考え方を明示し具体的活動につなげるため、2000年10月に「環境方針」を制定し、それ以来、教育・啓蒙活動などを通じて、機会あるごとに従業員への浸透を図っています。

環境理念

ペンタックスグループは
地球環境との共存共栄を基本理念とする
世界の「良き企業市民」の一員として
環境と調和した
活力ある企業活動を通じて
優れた地球環境実現に貢献します

環境方針

「ペンタックスグループ環境理念」に基づき、環境との共存共栄を基本とし、当グループの環境方針を以下のように定める。

①製品の企画から販売及び廃棄までの段階において、循環型社会をめざし資源の有効活用に配慮した事業活動を推進する。

②環境負荷の低減を考慮した製品を提供する。

③国内外環境関連法令および協定などを遵守する。

④地域社会との共存共栄を図るため、地域の環境保全、人々の健康、安全に配慮した事業活動を推進する。

⑤以上の事項を確実なものにするため、環境マネジメントシステムの充実と継続的改善を推進する。

ペンタックスは、環境保全を企業活動の中でも重要課題の一つに位置付け、1993年に環境保全推進室を設置して環境保全活動をスタートして以来、環境に調和した社会の実現に向けて、グループをあげて取り組みを展開しています。

2005年度の活動成果について、地球温暖化物質であるCO_2の排出量削減や廃棄物のリサイクルを積極的に推進し、本社サイト及び益子サイトにおいては当初の計画どおりゼロエミッションを達成したことなど、基本的な取り組み目標に対して成果を得ることができました。

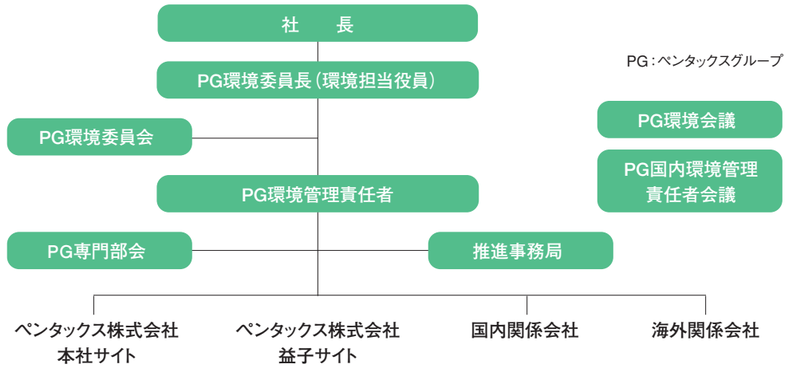
本年は、「環境理念」の制定から10年という節目を迎え、企業の社会的責任を広く認識する中で、環境への取り組みを着実に、しかも実効ある活動になるよう推進いたします。

ペンタックスグループ環境委員会
委員長
取締役 三浦　順夫

環境活動推進体制

ペンタックスグループは、環境担当役員を委員長としたペンタックスグループ環境委員会において、グループにおける環境への取り組みを環境活動重点項目として設定しています。各サイト及び関係会社は、環境活動重点項目に基づき具体的な目的・目標を設定して活動を展開しています。ペンタックスグループ環境会議及びペンタックスグループ国内環境管理責任者会議は、国内外の各サイト及び関係会社における環境保全に係る課題達成に向けての情報交換を行っています。

ペンタックスグループ環境活動体制



環境保全活動をよりきめ細かく進めていくために6つの専門部会を設置し、環境活動重点項目に基づく専門的課題の検討及び計画化を行っています。

製品開発アセスメント部会	：	環境配慮製品の開発、有害物質の削減・廃除に取り組む
グリーン調達部会	：	グリーン製品の購入・調達、有害物質の削減・廃除に取り組む
生産アセスメント部会	：	省エネルギー及び環境負荷低減生産に取り組む
ゼロエミッション部会	：	ゼロエミッション、リサイクル向上に取り組む
法規制部会	：	国内外環境関連法規制に関する情報の収集と伝達、遵法の維持に取り組む
RoHS対応部会	：	RoHS指令対応に取り組む（指令施行までの時限設置）

2005年度 環境活動重点項目

①CO_2排出量の削減

生産活動においてエネルギーの使用などにより温室効果ガスを排出していることから、地球温暖化の防止に向けてCO_2排出量の削減に取り組んでいます。

②廃棄物の削減

地球資源の枯渇を踏まえ、できるだけ少ない資源での生産活動や循環型社会を目指すことから、廃棄物の総量削減や再資源化を進めています。

③グリーン調達の促進

ペンタックスグループが製造し販売する製品が環境に配慮したものであるために、製品に使用する資材や部品についても環境に配慮したものを調達しています。
また、業務で使用するOA機器や事務用品などについても環境に配慮したものを購入しています。

④製品含有有害物質の廃除

地球環境と人の健康への影響を少なくするために、設計、生産、物流、販売のすべてのプロセスにおいてRoHS指定6物質の取り扱い廃止を進めています。

⑤省資源の促進

持続的発展が可能な社会に貢献するため、環境負荷低減製品の開発を進めています。

ペンタックスグループ環境活動重点項目・活動結果

③グリーン調達の促進

目標

- **2005年12月末までに、調達する原材料、部品、製品、包装資材等からRoHS指定6物質を廃除する。**
- **国内関係会社を含めたグリーン購入の推進。**

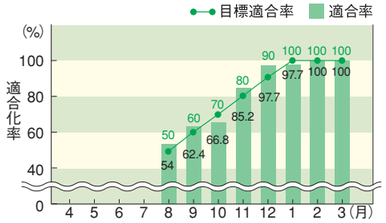
1）グリーン調達

ペンタックスグループグリーン調達管理規定、グリーン調達ガイドライン、グリーン調達調査要領に基づき、部品調達時にRoHS指定6物質（鉛、カドミウム、水銀、六価クロム、ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル）をはじめとした製品含有禁止化学物質の廃除に取り組みました。

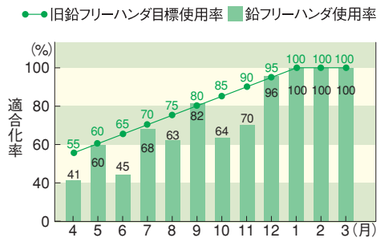
2006年3月末までにハンダ及び光学ガラスなどをRoHS対応部品に切替え完了しました。

2005年度グリーン調達達成状況

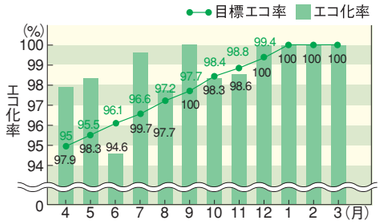
①購入部品のRoHS適合化



②基板実装ハンダのエコ化



③光学ガラスのエコ化

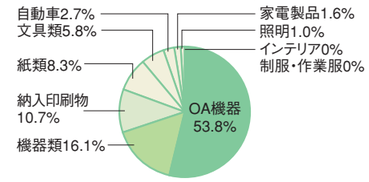


2）グリーン購入

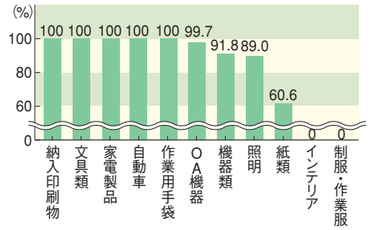
ペンタックスのグリーン購入は、事務用品、什器備品などの一般購入に際し、グリーン購入ネットワーク（GPN）が策定した『グリーン購入ガイドライン』に従い、環境に配慮した物品などを購入しています。

2003年度より、関係購入部署でグリーン購入を開始しました。2005年度はグリーン購入目標の90%以上を達成し、90.8%となりました。今後もグリーン購入を継続していきます。

購入グリーン製品の内訳グラフ（金額ベース）



対象別グリーン製品の購入率グラフ（品目ベース）



データの範囲：本社サイト

グリーン購入目標と実績

目標	：	2005年度目標	90%以上
実績	：	2003年度	89.2%
		2004年度	89.4%
		2005年度	90.8%

④製品含有有害物質の廃除（RoHS指定6物質）

目標

- **2006年3月末までに、すべてのプロセス（設計、生産、物流、販売）においてRoHS指定6物質の取り扱いを廃止する。**

主力のカメラ製品や光学モジュールをはじめとするRoHS指令に該当する製品について、指定有害化学物質の削減・廃除を進めています。2006年3月末時点では従来製品について一部対応が遅れており、これらについては2006年6月末までに完了するよう努めています。また、RoHS指令除外製品の医療用機器、測量機器についても指定有害化学物質の取り扱い廃止を図っています。

⑤ 省資源の促進

目標

- **容器包装の簡素化**
- **エコラベル登録推進**

ペンタックスは、容器包装の簡素化を図り、省資源を推進しています。また、新製品の発売時に環境にやさしい製品を“エコリーフ環境ラベル”に登録しています。

1）容器包装の簡素化

内視鏡用キャリングケース

内視鏡の梱包資材として用いられるキャリングケースは内視鏡の搬送と保管に用いられます。

今回製作したキャリングケースは、従来品と同等の強度を持ちながら、重さを従来品の約50%に軽減し、搬送作業を容易にすることと、環境負荷低減を考慮して、金属材を全く使わず、外装材に段ボールのみを使用することでリサイクルしやすいものにしました。取っ手とクッション材に使用した樹脂材すべてに材料名を表示し、取っ手は段ボールから容易に取り外しができる構造にし、クッション材には接着剤を一切使用しないことで、容易に分離可能とし、リサイクル作業の簡易化を図りました。

従来品

改良品

改良品内部

開発設計にあたって

段ボールのフルート面*が極力出ないようにするため、また強度確保するために折り返しの多い構造としました。また従来品と同じ大きさを保ちながら、中敷に取扱説明書やA4サイズの付属品を収納できるスペースを設けています。外装表面をコートすることにより、意匠的な価値を持たせると同時に、撥水性も向上させました。

フルート面*
ダンボールの切断面

2）エコリーフ環境ラベル登録

毎年1機種以上のエコリーフ環境ラベル登録活動を推進しており、2003年度にDIGIBINO DB200、2004年度に*ist DSを登録しました。2005年度は予定していた製品の開発を延期させたため未登録でした。

ペンタックスグループ環境活動重点項目・活動結果

ペンタックスグループはPG環境方針に基づき、2005年度環境活動重点5項目を設定し、地球温暖化防止や省資源に対する取り組み、廃棄物のリサイクル（ゼロエミッション）、グリーン調達、化学物質の管理徹底など積極的な環境活動を推進しています。

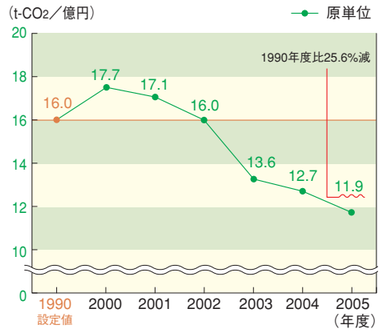
ペンタックスグループ 環境活動重点項目の活動結果

① CO_2排出量の削減

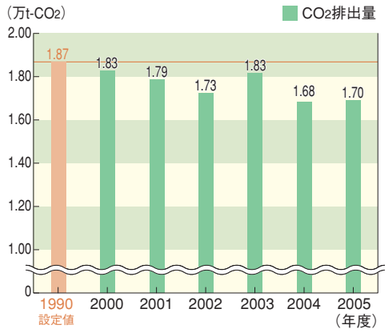
目標　●1990年度実績に対し、10%の削減を維持する。（原単位）

CO_2排出量については、使用されるすべてのエネルギー源の電力、ガス、重油、ガソリンを対象にCO_2に換算し、その絶対量及び原単位（CO_2排出量／連結売上額）で管理しています。また、2005年度は1990年度実績に対し、25.6%削減しました。

CO_2排出量（原単位）推移グラフ



CO_2排出量（絶対値）推移グラフ



データの範囲：ペンタックス（株）及び国内関係会社

チラー冷凍機運転方法の改善に伴う省エネ

機械冷却設備の冷水供給のため、チラー冷凍機*2台で2系統へ供給していました。

省エネルギーの観点から設備負荷量を再調査し、1台の能力でも十分であることが確認できました。現在、1台のチラー冷凍機で2系統へ供給し、もう1台は予備機として交互運転を実施しています。

削減効果：CO_2排出削減量　20t／年

チラー冷凍機の省エネ改善

チラー冷凍機*
冷水を作り出し、機械冷却や冷房に使用する循環水冷却装置。

[チーム・マイナス6%]へ参加

ペンタックスグループは、環境省の地球温暖化防止運動『チーム・マイナス6%』に賛同し、以下の会社が参加しています。

1 ペンタックス（株）本社
2 ペンタックス オプトテック（株）
3 ペンタックス インダストリアル インスツルメンツ（株）
4 ペンタックス福島（株）
5 ペンタックス東北（株）
6 ペンタックス東北（株）山形工場

オリジナル啓蒙ポスター

② 廃棄物の削減

目標　●2006年3月末までに産業廃棄物のゼロエミッションを達成する。（ペンタックス（株）本社サイト／益子サイト）

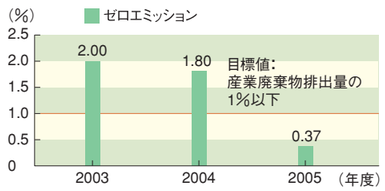
1）廃棄物総量の削減

廃棄物をリサイクル可能に分別し、リサイクルされない廃棄物量削減に取り組み、産業廃棄物のゼロエミッション1%活動を実施しています。ペンタックス（株）の産業廃棄物ゼロエミッション1%活動は、2003年度より活動開始し、2005年度は0.37%まで向上しました。

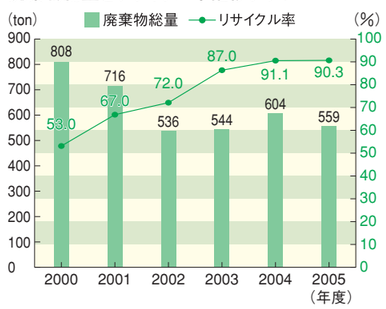
また、国内関係会社全体の2005年度ゼロエミッションは9.28%でした。国内関係会社は、2006年度目標ゼロエミッション1%以下で活動しています。

ペンタックスのゼロエミッションの定義
最終処分量（埋立処分量）が
産業廃棄物排出量の1%以下とする。

ゼロエミッション推移グラフ

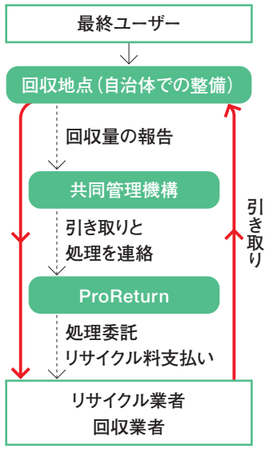


廃棄物総量とリサイクル率推移グラフ



データの範囲：ペンタックス（株）本社サイト／益子サイト

ドイツのWEEE指令に基づくリサイクルシステム



EAR*：Elektro-Altgeräte Register

2）WEEE指令への対応

EU廃電気電子機器リサイクル指令（Waste Electrical and Electric Equipment Directive）は、2005年8月に施行されましたが、ペンタックスグループは、ヨーロッパ地域における海外販売会社のPE（PENTAX Europe GmbH）と情報交換を行いながらEU各国の販売現地法人を通じた協力体制のもと、現地リサイクル業者と契約を結び法規制に対応した仕組みの構築に努めてきました。

ペンタックスグループは、製品を出荷するときWEEE対象品に掲示するシンボルマークを貼り、16ヶ国語の説明文を同梱しています。

WEEEについてペンタックスは先行していますが、加盟各国の対応が大幅に遅れています。PEからWEEEに関する情報が届きましたが、ドイツにおいても2006年3月末にようやくスタートしたところです。ドイツの場合WEEEを管理する「EAR」*に対して事前に年間販売重量を届出、お客様は設置された製品ジャンルごとの廃棄ボックスに廃棄したい製品を入れ、自治体の要請に基づくトラック業者によってリサイクル会社に回収されます。

その回収費用はトラックの運搬実績及び事前に「EAR」に届け出た年間販売見込みに基づき算出した額をトラック業者が各生産者に対して請求します。その際、「EAR」は生産者の販売実績を年度末にチェックする仕組みになっています。

環境保全のためのさまざまな活動

重点項目以外においても、可能な限り環境負荷低減を目指し、有害物質管理などの各種取り組みを行っています。

電子帳票システム

ペンタックスグループ中期経営計画におけるドライバーの一つである“スピード経営”の一環として、プロジェクトを編成し、電子帳票システムの構築を推進しています。

この中で、社内ネットワークの活用及び人事システムの改良により、2005年度は大きなペーパーレス効果をあげました。

2005年度紙の削減実績
354,000枚（A4判換算）の削減　1.4トン相当

2006年度以降の計画
1. 法定帳票の電子帳票化の導入
2. 管理帳票の電子媒体化実施

レンズパックトレー（光学部品輸送容器）のリユース

レンズパックトレーは、光学レンズ部品の輸送に使用される専用の梱包容器です。ペンタックス オプトテック（株）で製造した光学レンズは国内外の生産事業所に輸送しています。使用後のレンズパックトレーは返却されリユース（再使用）を繰り返しています。さらに、トレーの材料を変更することで、環境負荷の低減を図りました。

・リユーストレー枚数　220,554枚
　削減金額換算　9,072,806円
・材料変更状況：
　PVC（ポリ塩化ビニル）からPET（ポリエチレンテレフタレート）及びPS（ポリスチレン）への切替え　90%切替え完了

環境リスクマネジメント

PCB含有トランスの保管

土壌浄化対策

PCB管理

ペンタックスグループの複数の会社は、PCBを含有する電気機器を保有しています。いずれも現在使用しておらず保管中のものです。これらは法に則り適切に保管管理しています。

日本環境安全事業株式会社によるPCB廃棄物の処理が開始されたことから、早期処理を図るべく同社に対し早期処理登録の申請を行いました。これにより2007年から2008年の処理完了を予定しています。

アスベスト管理

ペンタックスグループのアスベスト使用状況の調査を行い、アスベスト含有の建築資材及び機械装置部品において、その使用が見られました。いずれも現在は劣化や損傷もなく、定常時においては飛散などの問題が生じる危険性はありませんが、今後定期的に点検を行いながら随時対応することにします。また、吹き付け材にアスベストが含有されている箇所がありましたが、その封じ込め工事が2006年3月に完了したことで、公的機関による検査を受け、飛散はないとの結果を得ました。

さらにアスベストの管理強化のため「アスベスト管理基準」を策定し、ペンタックスグループで統一的な管理が出来るようにしました。

ペンタックス オプトテック（株）小川 土壌・地下水浄化対策について

2002年8月に確認された土壌・地下水汚染に対して、応急対策完了後2003年度下期からその恒久対策を実施しています。

2005年度は、汚染土壌の除去及び埋戻しを継続して実施しました。さらに、既存建物下の土壌について、原位置浄化工法であるバイオスクリーン工法（土中微生物を活性化させその働きにより汚染物質を分解する工法）による浄化を実施しています。また地下水の汲み上げ・ばっ気・活性炭処理による浄化も継続しています。

近隣住民の方々に対しては2005年7月に恒久対策工事の見学と進捗説明会を実施しました。

環境コミュニケーション

ペンタックスグループ各社において清掃活動及び植林活動を行っています。また、地域社会との交流・コミュニケーションについても積極的に行い、地域の方々とのよりよい関係づくりに努めています。

●地域の清掃活動

ペンタックス（株）本社（東京都板橋区）

2000年10月より始めた清掃活動もはや5年。「目指そう! 笑顔でクリーンな町づくり」をスローガンとし、環境活動の一環として従業員有志による地域の道路及び各公園の清掃を昼休みの時間を利用して毎月1回実施しています。平均130人の従業員が参加しています。その他、年に数回、近隣の淑徳中学・高等学校や板橋区立特別養護老人ホームみどりの苑、児童養護施設マハヤナ学園撫子園とペンタックス（株）との合同清掃を実施しています。2005年度は延べ1,628人の参加がありました。

2005年10月に最寄りの東武東上線ときわ台駅周辺が路上禁煙地区の新地区に指定され、その際ペンタックス（株）として周知キャンペーンに参加しました。マナーを守って快適できれいな街になるように啓発用ティッシュの配布及び周辺の清掃活動を行いました。

ペンタックス（株）インキュベーションセンター（埼玉県和光市）

毎月1回従業員による近隣の清掃を実施し、2005年度は延べ247人が参加しました。

ペンタックス東北（株）（宮城県栗原市）

ラムサール条約の登録湿地である伊豆沼・内沼のクリーンキャンペーン（栗原市築館地区）に年2回従業員及び従業員の家族が参加しています。因みに「ラムサール（Ramsar）」はイランにある、カスピ海沿岸の土地の名前だそうです。

ペンタックス福島（株）（福島県西白河郡矢吹町）

矢吹町主催の「全町クリーン作戦」へ年1回従業員及び従業員の家族が参加しています。

●植林活動

ペンタックス セブ フィリピン コーポレーション（フィリピンセブ市）

社会貢献の一環としてマングローブの植林を行っています。マングローブには、波による海岸の浸食を防ぎ、暴風雨などから海岸やその地域を守る防災機能があり、津波のようなより大きな沿岸災害に対しても有効性があることが確認されています。

●環境活動等の参加・交流

環境なんでも見本市（2006年2月）

「板橋環境会議」が主催する「環境なんでも見本市」のイベントへ参加しました。当日は環境活動の展示を行うとともに写真撮影及びプリントの無料サービスを行いました。

けやきの公園5周年記念「こいのぼり大会」への参加（2005年5月）

板橋区で公園管理の里親制度により運営、管理をする「けやきの公園」の開園5周年記念「こいのぼり大会」に参加しました。当日は環境活動の展示を行うとともに写真撮影及びプリント無料サービスを行いました。

NACS-J自然観察指導員全国大会（2006年2月）

東京都八王子市にて開催された、第7回NACS-J自然観察指導員全国大会に協賛しました。2日間にわたり、CSR活動のパネル展示を行うとともに、双眼鏡の展示及び天体望遠鏡で月と土星の観察会を実施しました。また早朝の自然観察会時に当社の双眼鏡を貸し出し好評を得ました。

製品開発における環境配慮

製品の企画・開発から販売及び廃棄に至る製品のライフサイクル全体にわたって、環境負荷の低減を考慮し、資源の有効活用に配慮した製品を提供しています。

開発設計にあたって

ペンタックスは、民生用機器、医療用機器、産業用機器の分野で設計、製造、販売を行っています。民生用機器では小型・軽量を、医療用機器では安全性・信頼性を、産業用機器では高性能と操作性を基本に開発・製造を行っています。

開発設計段階における品質マネジメントシステムの設計管理に製品アセスメントを取り込み、環境問題を考慮した評価項目を設け、環境負荷低減を図っています。

レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ

*istDL2

＊ist DL2は、「小型・軽量・ユーザーフレンドリー」を実現するデジタル一眼レフシリーズのファミリーユース向け機種として、「スマート! デジタル一眼レフ」をコンセプトに2006年春に発売したモデルです。

環境への配慮

●使用部品質量の削減
主にペンタプリズムのガラスから樹脂モールド化（中空ペンタミラーの採用）により、従来機種＊ist DSに比べカメラの重さで、約10%削減しました。

●環境有害物質の廃除
ハンダの鉛フリー化、有害物質の規定量廃除の徹底などにより、付属品及び梱包部材を含むすべてにおいて2006年7月より施行されるRoHS指令に適合しています。

コンパクトデジタルカメラ

Optio S6

OptioS6は、ペンタックスの一貫するコンセプトである「小型・軽量」を実現するOptio Sシリーズの最上位機種として、2005年秋に発売したモデルです。

環境への配慮

●使用部品質量の削減
部品の小型化と使用数の削減により、従来機種であるOptio S5zに比べ、本体の質量を約5%削減し、大きさ（体積）で約13%の小型化を実現しました。

●環境有害物質の廃除
ハンダの鉛フリー化などにより、2006年7月より施行されるRoHS指令に適合しています。

製品環境影響評価による環境負荷低減の取り組み事例

製　品	取り組み内容	2006年3月末での状況
デジタルカメラ	部品点数の削減、部品の置き換えにより、基板面積を5%削減する。	基板面積は、新製品2機種において従来製品比、それぞれ33%、9%削減。
レンズ	使用するガラス材料の体積削減5%を目標にレンズ設計を行う。	4機種について目標達成。
プリンター	小型化及び有害物質削減設計で製品環境影響評価ポイント＊を3%削減し、25ポイント未満とする。	1機種について評価ポイント23.98で達成。
電気コード	自動絞り及びモーター付きズームレンズに使用する電源コード被覆を塩化ビニルレスにする。	被覆の硬さを検討中。2006年度継続検討。
ケース梱包容器	カメラケースに使用する塩化ビニルの使用量を2001年度比50%削減する。	削減率：50.1%
	製品梱包用化粧箱の材質・使用量・印刷工程での環境負荷軽減を3件実施する。	デジタルカメラ用化粧箱で大豆インク使用印刷を3件実施。

製品環境影響評価ポイント＊　製品環境影響評価は環境マネジメントシステムの環境影響評価規定に定められ、以下の8つを評価項目とします。
項目毎に段階を設定し数値化します。ポイント25以上の場合、環境への影響が優位性ありと判定し、環境目的・目標に反映します。

【製品固有項目】
(1) 質量
(2) 消費エネルギー
(3) 有害物質（弱いレベル）
(4) 有害物質（強いレベル）

【製品外因項目】
(5) 販売量（販売台数）
(6) 製品寿命（設計時予想）
(7) リサイクル（製品回収率）
(8) 修理（体制の有無）

自家蛍光観察電子内視鏡システム

QOL（Quality of Life）向上＊1
ここでは、患者さんの日常生活をどれだけ苦痛の少ないものにするか、具体的には入院日数短縮や身体への負荷低減を指します。

低侵襲化＊2
痛み、苦痛を低減すること。内視鏡の場合、挿入部の細径化、挿入操作性能等がこれにあたります。

銀ロウ付＊3
金属同士を接合する技術の一種で、銀と銅の合金を使用するものをいいます。

現在主流である電子内視鏡システムは、主にスコープ部と光源・プロセッサ部で構成されています。ペンタックスは、医療機器としての安全性を第一としながら、患者さんのQOL向上＊1のための更なる低侵襲化＊2を目指しています。

生体組織内の蛍光物質が発する蛍光の強弱により病変部の識別・早期発見が期待できる自家蛍光観察内視鏡システムで、世界で初めて電子内視鏡を採用することにより、画質の高品質化を実現した光源・プロセッサ装置（PENTAX SAFE-3000）と専用電子内視鏡（PENTAX EB-1970AK）を、2005年11月より海外向けに販売を開始しました。

プロセッサ部は従来機種PENTAX SAFE-1000に比べ、大幅な軽量化と省エネルギー化を図りました。

医療用機器はRoHS指令除外製品となっていますが、ペンタックスは、光源に有害な水銀を含まないキセノンランプを、また光学レンズ系には鉛、砒素を含まないエコガラスを使用しています。一方機構部分にはカドミウム低減真鍮材料を用い、カドミウムフリーの銀ロウ付＊3材料を使用することで、有害化学物質の低減を進めました。

光源・プロセッサ装置

専用電子内視鏡

小型・軽量・有害物質廃除の光学モジュール

3倍ズームのレンズユニット
（デジタルカメラ、携帯電話共用）

AF付レンズユニット（携帯電話用）

光学モジュールは、小型・軽量のデジタルカメラの撮影レンズとフィルムに相当する受光素子（CCD）からできています。この小さなモジュールに100点程の部品が詰まっています。

ペンタックスは、光学モジュールを自社製品に組み込むとともに、他のカメラメーカー、携帯電話メーカーへの提供も行っています。

●含有化学物質の廃除

RoHS指令では、個々の部品に含まれる有害化学物質の含有許容量が決められています。一方、この許容量基準をより厳しく設定する取引先もあります。

それらの要求に応えるため、部品1点ごとに含有化学物質の調査、分析を行い、有害化学物質含有が確認された場合は、図面訂正し部品変更を行いました。

金属部品の素材、表面処理層、塗料、印刷インクに含まれる鉛、カドミウム、六価クロムには特に注意が必要でした。

また、光学ガラス中の鉛はRoHS指令では適用除外ですが、エコガラスを採用することで、切り替えを完了しています。

製造部門では、調達生産材の検査体制を構築しています。上乗せ基準に対応を行った取引先からは、パートナーシップ宣言書をいただいています。

●機構設計（製品の信頼性向上）

携帯電話向けでは、デジタルカメラと比較して落下試験や動作温度環境などの試験条件が厳しくなっています。

試験条件	デジタルカメラ	携帯電話用カメラ
落下試験	数cm～数10cm	150cm
動作温度環境	0℃～45℃	−30℃～60℃

＊落下試験は通話中の大人を想定しているために耳の高さが基準になります。

落下試験対策は稼動部をいかに少なくし衝撃に強い設計にするか、動作温度環境はAF（オートフォーカス）動作が問題なく機能するかが重要なポイントです。AFモータのトルクはモータ自体の大きさに左右されるため、必要最小限の大きさのモータを選択、さらに、グリースの粘度を種々検討し、-30℃の環境下で凍結することなく、60℃の環境下でも正常に動作する条件を確立しました。使用環境耐久性をアップすることで、信頼性向上を図っています。

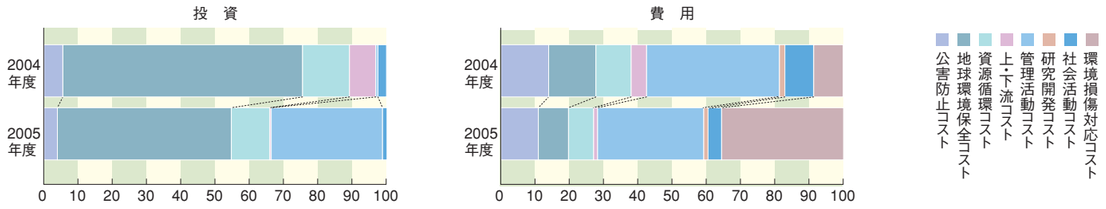
環境会計

環境会計の集計にあたっては、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」を参考としながら、経営に役立つ指標として利用する目的で、自社の環境保全活動に基づいた分類を設定しました。

2005年度 環境会計実績

- 投資は環境保全のための施設、設備に関する投資金額を計上しています。
  2005年度は、資源循環コストの構内水道配管工事、管理活動コストのRoHS指令対応及びアスベスト封じ込め工事が増加しましたが、地球環境保全コストと上・下流コストが減少し、投資合計は39,684千円減少しました。
- 費用は減価償却費、人件費、廃棄物処理費、外部委託費、研究開発費等を計上しています。
  2005年度は、環境損傷対応コストの土壌浄化対策費用が大幅に増加し、費用合計は236,059千円増加しました。
- 投資と減価償却費については、環境保全に対する影響度を考えた比率を設定し、算出しました。
  また人件費は環境保全活動に係った度合いで比率を設定し、算出しました。

環境コストの構成比

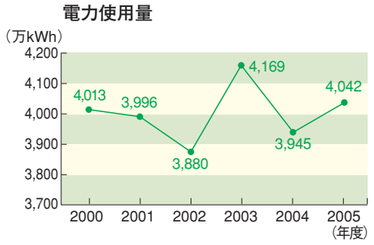


環境会計（環境省ガイドラインベース）

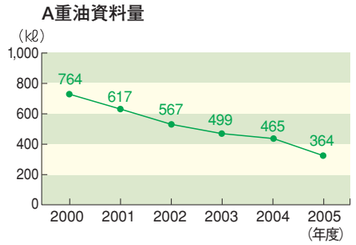
分類		主な取り組み内容	環境コスト（単位：千円） 投資 2004年度	投資 2005年度	費用 2004年度	費用 2005年度	環境対策・効果	関連ページ
事業エリア内コスト	公害防止コスト	監視、測定、保守	10,878	6,119	84,258	91,318	環境法規制（大気汚染・水質汚濁・騒音・振動等）に自主基準値を定め順守	—
	地球環境保全コスト	CO_2削減	138,654	80,349	83,389	73,583	1990年度比　25.6%削減（原単位） 2004年度比　6.3%削減（原単位） 「チーム・マイナス6%」参加	7
	資源循環コスト	省資源	0	17,000	200	2,933	紙使用量総量削減　2004年度比　19.6%削減［4 参照］ 森林資源率　2004年度比　3.1%向上 構内水道配管工事（17,000千円）	10 11
		廃棄物の削減・リサイクル・リユース	27,107	708	62,172	58,734	廃棄物総量　2004年度比　1.2%削減 ゼロエミッション率　2.83% （ペンタックス（株）0.37%／国内関係会社　9.28%） レンズバックトレーのリユースによる製作費用削減（9,073千円）	8 11
上・下流コスト		グリーン購入・調達	15,200	639	27,160	9,966	グリーン購入率　90.8%　2004年度比　1.4%向上 調達部品のRoHS指令適合化	9
管理活動コスト		化学物質	511	51,451	41,721	11,977	PRTR法指定対象物質総量　11.6%削減［2 参照］ アスベストの封じ込め工事（12,000千円） RoHS対応3価クロム設備新設（27,779千円） ボイラー撤去（6,000千円）	11
		緑化	605	5	8,932	9,372	美化・環境保全	—
		マネジメントシステムの運用	0	0	177,726	233,663	環境活動の推進 内部監査員の増員　38名	5〜6
		コミュニケーション	0	0	6,106	5,710	環境・社会報告書の発行、地域イベントへの参加	12
研究開発コスト		製品アセスメント	0	0	8,209	7,810	製品アセスメント実績　146件 新製品のバッテリーライフ向上、部品点数削減、有害物質削減、 RoHS指令対応	13〜14
社会活動コスト		社会活動・メセナなど	5,000	2,000	51,951	36,179	災害支援活動（米国カトリーナ、パキスタン大地震） ペンタックスフォーラム・ミニギャラリー・カメラ博物館の入場者数　469,700人 体育館の利用者数　延べ7,200人 道路清掃キャンペーン参加人数　延べ1,930人 地域イベントへの参加	12 27
環境損傷対応コスト		土壌汚染対策／公害健康補償法費用	0	0	52,182	298,820	土壌・地下水浄化対策など	11
		合計	197,955	158,271	604,006	840,065		

1 地球環境の保全のため、新規、更新設備については省エネルギータイプの設備を導入してきましたが、気候変動などに依存する部分が多く、2004年度に比べ電力使用量は増加しました。CO_2削減の観点から空調設備を電力使用に切り替えることで、A重油使用量は着実に減少しています。

電力使用量

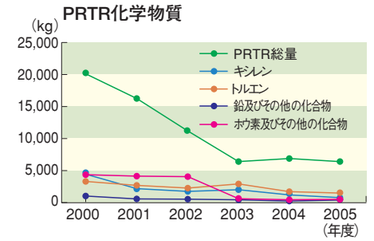


A重油資料量



2 化学物質の削減についてはPRTR法に基づく指定化学物質の削減を進めています。なお、会社単位で1トンを超え、届出が必要な化学物質は皆無となりました。

PRTR化学物質

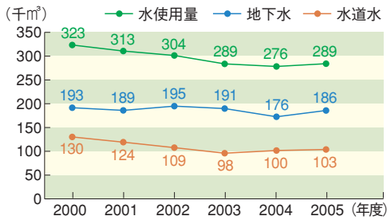


（kg）

分類＼年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005
PRTR総量	20,184	16,095	11,664	6,917	7,204	6,366
キシレン	4,420	1,808	1,505	2,052	1,321	941
トルエン	3,182	2,568	2,100	2,870	2,066	1,434
鉛及びその化合物	1,061	629	611	409	353	233
ホウ素及びその化合物	4,400	4,376	4,156	668	427	603

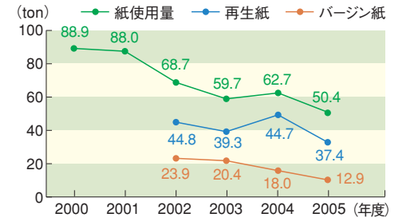
3 水使用量はリサイクルシステムの運用により、安定した使用量で推移しています。

水使用量



4 紙の使用量は総量削減及び再生紙への切り替えを進め、環境への負荷低減を図っています。

紙使用量



集計の範囲：　ペンタックス（株）
【国内関係会社】
ペンタックス オプトテック（株）
ペンタックス インダストリアル インスツルメンツ（株）
ペンタックス東北（株）
ペンタックス東北（株）山形工場
ペンタックス福島（株）

集計期間：　2005年4月1日〜2006年3月31日

各社の活動状況

国内・海外のペンタックスグループがそれぞれの地域特性に合わせた取り組みを行っています。

本社サイト

所在地：東京都板橋区

当サイトでの業務は、研究開発部門、購買部門、営業部門、管理部門及びスタッフ部門の総務部、人財開発部、財務経理統括部等で構成されています。メイン業務が製品の研究開発とスタッフ部門業務で製品の生産は行っていませんが、省エネルギー活動として昼休み時の消灯、冷暖房の設定温度（夏は28℃、冬は22℃）の管理を徹底しています。そのため、CO_2排出量は1990年度比で27.1%削減することが出来ました。廃棄物も分別を徹底し、リサイクルセンターにて管理を行っています。また、隣接地との騒音、振動、悪臭等の監視及び水質汚濁、大気汚染等の環境に配慮した環境活動を実施しています。

RoHS指令に代表される規制に対し、環境負荷低減製品の開発など、当サイトがペンタックスグループ全体の牽引役としての使命を持って日々活動しています。

省資源・リサイクル部会：
2005年度にはゼロエミッションを達成しました。また、総排出量の削減に努めました。

省エネルギー部会：
CO_2排出量の削減のために生産設備の効率運転、省エネルギー改善をはじめ総合的なエネルギー使用の効率化に努めました。また、省エネルギー、省スペースの小型高精度芯取機を開発し、量産現場で使用し効果をあげています。

環境汚染物質部会：
登録の段階で法規制の有無確認や環境影響評価を実施し、環境負荷の高い物質の使用防止とPRTR及びVOC（揮発性有機化合物）対象物質を中心に使用量の削減に努めました。

グリーン部会：
レンズバックトレーのリユースを継続的に進めています。また、グリーン調達・購入を行うための仕組みづくりに取り組みました。

益子サイト

所在地：栃木県芳賀郡益子町

小型高精度芯取機

当サイトは、ペンタックス（株）益子事業所及び2005年7月の分社化に伴い新たに設立されたペンタックス　オプトテック（株）の二社が共存し、同一サイトとして一緒に環境活動を推進しています。

ペンタックス　オプトテック（株）は、元々益子事業所の一部であった精密加工部門が分社化されたものであり、ペンタックス製品の基幹部品である光学部品・精密部品の加工を主体に業務を行っていますが、最近ではグループ以外の外販にも注力しているところです。

当サイトの環境活動は、4つの専門部会を中心に行っています。

国内関係会社

ペンタックス インダストリアル インスツルメンツ株式会社

所在地：東京都練馬区

ペンタックス　インダストリアル　インスツルメンツ（株）の位置する場所は準工業地域になっていますが、周囲はマンションなどの住宅であるため、悪臭、騒音、振動、水質等が周辺に及ぼす影響を減らすことが、地域との良好な関係を維持するために重要です。事業形態も生産の海外展開などにより周辺環境に対する直接的な影響は大幅に減少しています。しかし、振動試験機及び衝撃落下試験機の設備があり、直接の騒音・振動源となる可能性があります。これらの設備は常時使用するものではなく、また、夜間の使用を禁じていますが、周辺への影響をできるだけ少なくするため、衝撃落下試験機を敷地境界線から可能な範囲で離れた場所へ移動し、さらに、振動試験機の移動と防音対策の実施を計画しています。これにより、周辺環境に対して問題となる可能性のある直接的な原因は非常に少なくなるものと考えています。

今後は、直接的な影響のみではなく、事業活動に伴う間接的な影響の改善に向けた取り組みが重要になってくるものと考えています。

ペンタックス東北株式会社

所在地：宮城県栗原市

環境活動の一つに“CO_2排出量の削減”をあげ、10%削減の目標達成に向けて取り組んでいます。

ペンタックス東北（株）の全CO_2排出量の3割が暖房用のボイラーで使われる重油です。ボイラーの老朽化に伴い電気式の空調設備に切り替えたところ、電力にかかわるCO_2排出量は17%増加しましたが、重油を使わないために全体のCO_2排出量は20%も削減され大きな効果が表れました。

また、2005年度は「チーム・マイナス6%」に登録し、従業員一人ひとりが出来る小さなことに目を向け、啓蒙活動をしてきました。その一例として、空調設備に設定温度のステッカーや水道の蛇口付近に節水を呼びかけるステッカーを貼るなどの活動をしています。

ペンタックス東北株式会社 山形工場

所在地：山形県長井市

「チーム・マイナス6%」活動の実践として、屋内空調温度の最適化や照明機器の省エネ型採用によりエネルギーの消費量を抑え、環境保全活動を推進してコストとCO_2を削減しています。循環型社会の構築として、廃棄物の分別や利用価値の見直しによる資源化を積極的に図り、廃棄物の埋め立て処分を減少させゼロエミッションを達成しています。

また、化学物質を環境に影響の少ない物質に変更し、環境負荷を少なくする活動にも継続して取り組んでいます。

廃棄物の分別状況確認

ペンタックス福島株式会社

所在地：福島県西白河郡矢吹町

1.廃油のリサイクル

リサイクル推進として工場内から廃油として排出処理されていた作動油や潤滑油などを、フィルターを使用して循環ろ過することにより不純物を取り除いて再使用することができるようになりました。ろ過した油は動粘度（38.5～47.1）及び汚染度（10以下）を判定基準にして再利用します。廃棄されていた廃油は焼却処理されていたためCO_2を発生させていましたが、CO_2の削減効果も得られました。

ろ過作業

（右）新品フィルター
（左）約400ℓろ過後フィルター

ろ過処理再利用実績
（2005年9月～2006年3月）
作動油：158ℓ
潤滑油：136ℓ

2.省エネルギー

2005年5月にスーパー高効率トランスを設置しました。このトランスに交換することで、0.24%の電力使用量削減の省エネ効果を得ることが出来ました。（0.24%はメーカーの公開する資料に基づき計算した値です）

●海外関係会社

ペンタックス セブ フィリピン コーポレーション

分析作業

工場が立地するマクタン島は周囲がおよそ20kmの小さな島で、北緯10度に位置する常夏の島、セブ島から橋が渡されています。マクタン島は国際リゾートとして有名ですが、1980年代から国際空港とそれに隣接する輸出加工区が整備され、フィリピンを代表する工業地域に発展しました。1990年にこの輸出加工区に設立されたペンタックス セブ フィリピンは、現在、2,000人を超える従業員を抱え、ペンタックスの主力工場として生産活動を行っています。

ペンタックス セブ フィリピンは、2003年にISO14001の認証を取得して、環境汚染物質の削減、省資源・省エネルギー等の環境マネジメントを推進しています。

2005年11月には「グリーン調達ガイドライン」のもとに蛍光X線分析装置を導入しました。この分析装置はRoHS指定6物質の含有量を測定する装置であり、この装置でペンタックス セブ フィリピンに納入されるあらゆる部品や生産資材を測定しています。

グリーン調達を推進中でもあり、現在までのところ1日当たり約80点の物品を測定していますが、基準値をクリアしないものは見つかっていません。

このように環境・安全面でもお客様のニーズに対応した生産活動を行っています。

香港寶得有限公司

ペンタックス香港は2005年10月にペンタックスグループによる環境社内認証を取得しました。現在は、環境目的・目標の達成を目指して、環境委員会の指導のもとに従業員全員が一丸となって環境活動に取り組んでいます。

香港政府の取り組みも少しずつ見られるようになってきました。まだ日本のようには進んでいませんが、ペンタックス香港でも今後はアルミ缶やペットボトルの分別を行い、資源の再利用に協力していく予定です。

また、2006年6月には蛍光X線分析装置を設置し、ペンタックス香港で受け入れている部品についてRoHS指定物質の含有量確認を実施します。

環境委員会の会議

ペンタックス VN カンパニー リミテッド

ベトナムでは、2005年の経済成長率が8.5%と急速な成長を続けています。それに伴いインフラの整備が急務となっています。

特に電力は工場運営上最も重要なファクターであり、近年火力発電所の建設が積極的に進められていますが、現在は電力の約50%を水力発電に頼っています。

このような背景から、ペンタックスVNは電力及び水の節約を目的として、排水処理用揚水ホンプの小型化及びエアーポンプ使用に切り替えました。また、使用する水道量の削減を目的として純水を使用した洗浄機の排水を活性炭ろ過により再度純水として使用する純水循環システムの導入を計画しています。

コーポレート・ガバナンス

ペンタックスは、企業の社会的責任を果たし社会から信頼されることが、企業価値の向上に不可欠であると認識しています。そのためには、コーポレート・ガバナンスを強化し、充実させることが重要であり、高い透明性と健全性が実現できる経営体制を整備し、適正に運営することを経営上の重要な課題の一つとして位置づけています。

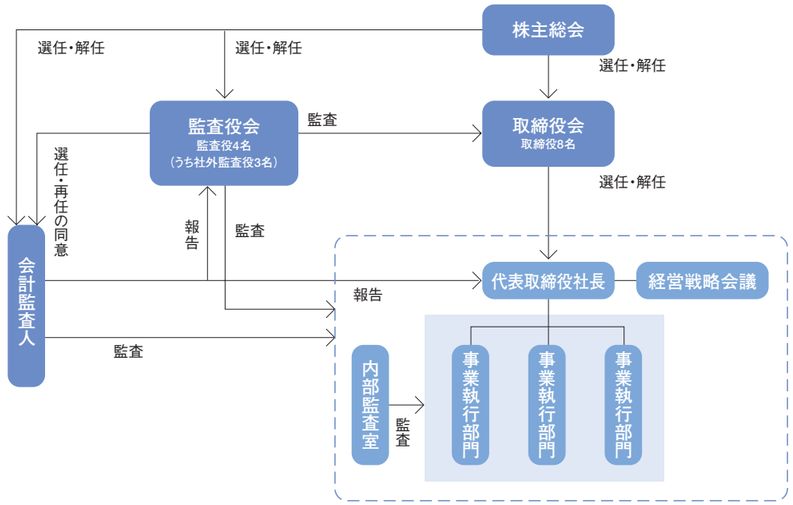
コーポレート・ガバナンスの状況

1) 経営機関体制

当社の「取締役会」は現在8名の取締役で構成され、経営の監督及びグループ経営に関わる重要な意思決定を行うため、月1回以上開催されています。また、「経営戦略会議」は社長の選任する取締役によって構成され、原則週1回の開催で、取締役会への提案事項の審議など、経営責任の明確化、業務執行の迅速化を図っています。

2) 監査体制

当社は監査役制度を採用し、4名の監査役のうち3名を社外監査役として経営監視機能を高めています。また、「監査役会」も連絡会を含め、原則月1回以上開催され、各監査役は取締役会をはじめとする重要会議への出席や個別監査により取締役、執行役員の業務執行監査を実施しています。また、監査役は必要に応じ会計監査人、内部監査部門と相互に意見交換、情報交換などを行い、監査の実効性向上に努めています。



コンプライアンス

ペンタックスグループは、法令遵守と高い倫理観からなる誠実な事業活動を通じて社会に貢献するための指針として「ペンタックスグループ コンプライアンス基本方針」を定めています。さらに、役員や従業員の具体的な行動原則として「ペンタックス企業行動基準」を制定しています。

コンプライアンス基本方針

ペンタックスグループは、法令遵守と高い倫理観からなる
誠実な事業活動を通じて社会に貢献するため、ペンタックスグループの
コンプライアンス基本方針を以下のように定める。

① グローバルな視野に立ったコンプライアンス態勢を構築し、
公正で透明な事業活動を行う。

② 常に良心と倫理観に基づいて行動する企業風土を確立する。

③社会的に信頼され尊敬される会社をめざす。

2003年10月1日
ペンタックス株式会社
代表取締役社長　浦野文男

ペンタックスグループは、社会からの要請である法令の遵守はもとより、従業員一人ひとりが良心と倫理観に基づいて行動し、社会からの期待に応えていくことができるグローバルなコンプライアンス体制と企業風土の確立を目指しています。

コンプライアンス体制と推進

推進組織

2005年7月に組織変更を行い、「コンプライアンス委員会」「環境委員会」「安全保障輸出管理委員会」を統括する「CSR推進委員会」（社長が委員長）を新設し、コンプライアンス推進業務をCSR推進部が行う体制としました。従来からのコンプライアンス・オフィサーやコンプライアンス・リーダー（合計で約150名）による各職場における取り組みとあわせ、CSRの視点で社会の要請に応えるコンプライアンス活動を推進しています。

啓蒙と研修

コンプライアンスに対する知識を深め、その重要性を常に意識できるように、「コンプライアンス・ガイドブック」を全員に配布し、入門研修を実施しています。また、新入社員に対するコンプライアンス研修では、担当役員が直接コンプライアンスの重要性を説明しています。その他、外部の専門家によるテーマ別の集合研修や関心の高い事例を取り上げたCSR推進部による職場研修など、研修の実効性を高めるよう努めています。

相談・通報窓口

CSR推進部内に設置された「コンプライアンス・ホットライン」でコンプライアンスに関する相談や通報に対応しています。なお、これとは別に、中立性や通報者の匿名性をより一層確保するために、社外の法律事務所に通報窓口として、「ヘルプライン」を設置しています。また、セクシュアルハラスメントについては、外部の専門機関に「セクシュアルハラスメント相談窓口」を用意し、就業時間外の電話相談にも対応できる体制にしています。

安全保障輸出管理

国際平和と安全の維持を目的とする「外国為替及び外国貿易法」を順守するための社内規程を制定し、運用面の向上を図ることにより、企業の社会的責任を果たします。

企業の輸出管理

東西冷戦終結後15年になる今日、輸出管理の対象は国家間の戦争から地域紛争やテロリストへ大量破壊兵器（核兵器、化学・生物兵器）を拡散させないことに変化しています。2005年7月7日ロンドンでの、地下鉄・バス同時爆破テロは記憶に新しいところです。大量破壊兵器を拡散させないために国際的な4つの枠組み会合が開かれており、それらの決定事項が世界各国で法制化されています。日本では「外国為替及び外国貿易法（外為法）」に、国際的な平和及び安全の維持を妨げることとなる特定の貨物・技術は経済産業大臣の許可を受けなければならないと定めています。

経済産業大臣から輸出企業に対して、外為法を順守するための輸出管理社内規程（コンプライアンス・プログラム：以下C.P.）を定める要請が出されています。C.P.を運用し法令を順守することは法令上の罰則や行政制裁の回避はもとより、社会制裁から企業を防衛する意味でも大変重要です。ペンタックス（株）はC.P.を1988年11月経済産業省に提出し受理されています。

関係会社の輸出管理

ペンタックス インダストリアル インスツルメンツ（株）は1998年3月にC.P.を届出、受理されています。ペンタックス オプトテック（株）は2005年7月に設立した新会社で、10月からC.P.の運用を開始しています。今後、早い時期に経済産業省に届け出る予定にしています。また、生産関係会社のペンタックス東北（株）とペンタックス福島（株）は事業活動内容を考慮し本社と一体の輸出管理を行っています。

輸出管理の社会的評価

経済産業省は企業の自主管理を進めるため、「適切なC.P.を自主的に作成・実施し、届出をした企業」を同省ホームページに掲載することを2003年10月から始めています。当リストは年2～3回改訂されており、ペンタックス（株）は初回（206社）から、また、ペンタックス インダストリアル インスツルメンツ（株）は2005年4月の更新4回目（360社）から継続して掲載されています。グループ企業が社会的責任を果たしている証として、当リストにこれからも持続して掲載されることを目指します。

運用と改善

日常管理ではC.P.を確実に運用することは基より、社内啓蒙教育を月例で開催するなど、安全保障輸出管理のレベルアップを図っています。2005年度中、政省令改正や内部監査結果などによる規程類の改訂を3回行いました。また、講習会は延べ15回、134名の輸出管理関係者教育を行いました。

企業が発展しながら持続することを当然の使命とし、輸出管理の確実な実行がステークホルダーの皆様方の安全や安心に広くつながっているものと自覚し、活動を進めていきます。

STC Expert*資格の社内講師による講習会

STC Expert*
財団法人安全保障貿易情報センター
の行う能力認定試験

情報セキュリティの取り組み

ペンタックスグループは、情報ネットワークが進化し続ける現在において、強く社会から求められる情報セキュリティについて、安全管理を徹底しています。

情報セキュリティの考え方

IT化を推進するペンタックスグループにとって、「情報セキュリティの確保」は必須事項です。

機密情報が漏洩した場合の社会的信用の失墜と取引先への影響は甚大となる恐れがあり、情報漏洩リスクを予防することは、早急に対応しなければならない経営課題の一つと捉えています。

ペンタックスグループは、情報セキュリティ体制を構築し、電子媒体、紙媒体等の様々な形態で保有する機密情報を重要な資産と位置付けて、適切に保護・管理しています。

情報セキュリティの取り組み

上記の考え方に則り、情報セキュリティマネジメントシステム（推進体制、ポリシー、規定、手順書）を確立し、2005年3月に運用を開始しました。

情報セキュリティマネジメントシステムの内容は、社内ポータルサイトから、全従業員が閲覧できるようにしています。2005年度までに実施した安全管理処置と2006年度実施予定の安全管理処置は、以下の通りです。

2005年度までに実施した安全管理処置

組織的・人的安全管理措置	情報セキュリティ推進体制の確立 情報セキュリティポリシー、規定、手順書を作成 情報セキュリティポリシーに関する教育実施
技術的安全管理措置	ファイアウォールによる内部ネットワークの保護 ウィルス対策ソフトインストールの徹底 サーバーの定期バックアップ PCメールの監視やPC盗難対策
物理的安全管理措置	主要サーバールームの施錠管理

2006年度に実施予定の安全管理処置

組織的・人的安全管理措置	情報セキュリティ内部監査の実施 継続的な情報セキュリティ教育
技術的安全管理措置	機密ファイル持ち出し制限 社外からの安全な社内ネットワーク利用
物理的安全管理措置	全サーバールームの施錠管理 社外データセンターの利用 重要拠点への入室管理

個人情報保護の取り組み

プライバシーマーク*

個人情報を適切に取り扱っている組織を一定の基準で認定し、プライバシーマークの使用を許諾する制度です。このマークを取得した企業は個人情報の取り扱いに対する社会的な信用を得ることができます。

ペンタックスグループは、保有する個人情報の取り扱いについて、2005年4月1日に全面施行された「個人情報保護法」に対応した個人情報保護管理体制を構築し、部署ごとに管理責任者を選任して適正な運用管理を実施しています。

「個人情報保護方針」を2005年3月に制定し公表するとともに、個人情報保護コンプライアンス・プログラムを効果的に実施するために、役割・責任及び権限を社内規定として明確に定め、個人情報の正確性及び保管管理と利用の安全性を確保しています。

個人情報保護はすべての役員と従業員が守らなければならないことから啓蒙教育を重視・実施し、個人情報保護に関する法令・規定順守の周知徹底と役員・従業員一人ひとりの自覚と意識の向上に努めています。

さらに、内部監査によるチェックとトップマネジメントによる見直しを定期的に実施し、個人情報保護の問題が発生しないよう適正な運用管理の維持と改善向上を図っています。

ペンタックスは2006年5月に審査機関JIPDEC〔(財)日本情報処理開発協会〕により、プライバシーマーク*付与の認定を受けています。これからは、ペンタックスグループ各社へその活動を展開していきます。

製品の品質に関する取り組み

お客様が望むものを望む時に提供するために、各部門で品質方針を決定し、品質、製品安全、コスト、納期でお客様に満足していただける製品を提供することを使命としています。

品質とお客様満足の向上

＜性能試験例＞

防水テスト

電波暗室によるEMC*1測定

「社会、市場、お客様と感動を共有し、環境の変化に配慮したエクセレントサービスを供給する」ことをモットーに顧客サービス、製品の販売サポートを強化向上し、お客様の満足を高めるために努力をしています。

製品の開発設計段階からの各フェーズごとに顧客重視の観点から品質をチェックし、様々な施策を構じ安心してお使いいただける製品を提供しています。具体的には品質管理、品質工学、信頼性工学等の管理技術を駆使し、

・開発設計段階での品質管理
・製造段階での品質管理
・製品段階での品質管理
・顧客修理の状況把握とフィードバック

など開発設計品質から市場品質までの一貫した製品品質の向上を図っています。

製品に関するお客様サポート

ペンタックスサービス（株）は、お客様からのお問い合わせ・修理サービス・製品情報提供などを迅速かつ的確に行うために次のようなサポート窓口を設けお客様満足の向上に努めています。

「ペンタックスフォーラム」は、専門スタッフによるご愛用機の点検、修理受付や製品に関するご相談を行うサービスセンターとギャラリー及びショールームスペースを設けており、年末年始を除く年中無休のユーザーサポートにより、総合的な製品品質とお客様満足の向上に努めています。

「お客様相談センター」は、お電話やインターネットによるお客様からのお問い合わせ窓口としてサポートを行っており、お客様のお問い合わせから得られた貴重な情報は、担当部署に発信し、特に製品に関するご意見・ご要望は毎日「お客様の声」として新製品開発の参考にし、製品にフィードバックしています。また、お問い合わせの多い内容はFAQ（よくある質問とその回答）としてホームページに掲載し、お客様の疑問解消にご利用いただいています。

PL*2／製品安全

「PL／製品安全」は、品質とお客様満足向上の重要なポイントの一つとして位置付け、問題の発生ゼロを目標とした未然防止システムを構築し、企業全体で積極的に製品事故の未然、再発防止に取り組んでいます。

FMEA*3などの手法により、開発設計段階において製品のライフサイクルすべてのフェーズにおけるPL／製品安全に関する危険を洗い出し、分析・対策をしています。製品安全性の確認、警告表示・使用説明書の作成などは、製品の高度化、複雑化、国際化、高齢化を考慮し、あらゆる視点からの確認、検討をしています。

さらに最終的に専門家・外部機関による厳しいチェックを受け、安全性の高い製品の達成を実現しています。

EMC（Electro-Magnetic Compatibility）*1
電磁環境適合性

PL（Product Liability）*2
製造物責任

FMEA（Failure Mode and Effects Analysis）*3
故障モード影響解析

情報開示・危機管理

ペンタックスグループは、経営の透明性向上、適切な情報開示に努めています。
また、経営理念である「相互信頼」「共存共栄」を達成するためには、すべての役員、従業員が、当社事業を取り巻く様々なリスクに対する感度を高く持ち、的確な対応を行うことが必要不可欠であると考えています。

情報開示

ペンタックスグループは、コーポレート・ガバナンスの一環として、情報開示委員会を設けて経営の透明性向上のため適時適切な情報開示を行うよう努めています。

基本方針

当社は、2006年5月施行の会社法や証券取引法の諸法令及び東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則（以下『適時開示規則』といいます）」に基づく情報をはじめ、これらに該当しない場合でも、株主、顧客、投資家等あらゆるステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報を、迅速、正確かつ公平に開示いたします。

開示方法

会社法や証券取引法の諸法令及び適時開示規則に基づく情報開示に関しては、東京証券取引所の「適時開示情報伝達システム（Timely Disclosure network：TDnet）」によって開示するほか、報道機関等を通じて開示（プレスリリース）するとともに当社のホームページhttp://www.pentax.co.jpにも情報を掲載しています。

また、年に2回、機関投資家向けにIR説明会を開催し、本決算、中間決算及び中期経営計画の内容などについて詳しく説明するとともに、説明で使用した資料をホームページ上で公開し、当社に対する理解を深めていただけるよう努めています。

それ以外の情報に関しても、当該情報の内容に応じて、適切な方法により開示しています。

社内体制

当社は、社内規程で組織上の指揮命令系統及び各組織単位の権限と責任を明確化しています。情報開示においてこれらが適用されるのはもちろんのこと、上記基本方針に基づき情報開示委員会を設置し、開示情報の適時性、正確性、網羅性等を事前審議するとともに、社内各部署における適時適切な情報開示の実施状況を監査する体制をとっています。また、情報開示の実務はIR・広報部が担当部署として行っています。

危機管理体制

事業活動を継続する上で想定される様々なリスクに対して、その予防及びリスクが顕在化した場合の対応活動を統括する全社的横断組織として、2001年12月に社長を委員長とする「危機管理委員会」を設置し、当社が想定するリスクに対する未然防止策や、リスクが発生した場合の対応について協議・決定を行っています。

また、リスクが顕在化した場合は緊急対策本部を設置して迅速な対応を実施し、被害を最小限に抑える体制を構築しています。具体的には、ペンタックスとして想定するリスク別に、リスクが顕在化した場合における通報体制や緊急対策本部設置のルールについて個別の対応マニュアルとして定め、緊急時対応に備えています。また、CSR活動の主要テーマである情報セキュリティ、安全保障輸出管理、PLなどについても、それぞれの主管組織が中心となり、従業員のリスク管理に対する意識を向上させるために、未然防止のための教育や必要な情報を提供するなどの啓蒙活動を行い、リスクの顕在化を極力防止するように努めています。

原産地表示

予防を重点としたリスク管理をミッションとして進めている活動の一つに「原産地表示」のテーマがあります。

原産地規則と一言で言っても、国際的に統一された規則はなく、また、その目的及び使われ方によって様々な規則や法律が各国にあり、そこに原産地規則を理解する上でのむずかしさがあります。このような状況下においてペンタックスは、原産地表示管理の実務規定を制定し、これらの一つ一つを漏れなく調査し順守しています。

誤った原産地を表示することのないよう、最終的には現地の当局、販売代理店、卸売業者の確認をとり、問題発生の未然防止をしています。

労働安全衛生の取り組み

各事業所における労働災害防止及び保健衛生向上と、従業員の健康の保持増進を図るため、安全衛生管理規程を定め、その円滑な運営により従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を目指しています。

安全衛生管理方針

労働災害防止を最優先し、健康で快適な職場形成を進める。
一人ひとりが工夫をこらし、実情に即した、より効果的な安全衛生活動を展開する。
活動を行うにあたり、下記の3項目を基本方針として定める。

基本方針 ：・安全を第一とし、危険の予知とその予防対策の徹底を図る。
・安全で快適な職場づくりのために、6S運動の推進を図る。
・「心とからだの健康づくり」活動の推進を図る。

目　標： 安全「労働災害・交通災害　0件」
衛生「6S徹底による　職場環境改善」
健康「心とからだの健康づくり　推進」

スローガン ：平成17年度　大丈夫ですか　あなたの職場　自分で守る安全・快適・健康職場
：平成18年度　安全・快適・健康職場　まずは一人ひとりの意識から

管理方針ポスター

各事業所での具体的な活動の運営は安全衛生委員会を設けて健康保険組合と協力のうえ進めており、それら委員会を統括する中央安全衛生委員会により、毎年度「管理方針」「目標」「スローガン」が定められ、それを基にして各事業所での活動に取り組んでいます。

安全衛生管理組織

中央安全衛生委員会 ⟷ 安全衛生委員会 ⟷ 職場ミーティング

※全社方針・活動テーマ等の制定
※事業所の特性を反映した活動を実施

具体的な取り組み

安全衛生管理

安全衛生活動が有効に機能するよう安全衛生委員会を活用し、積極的に従業員からの意見を吸い上げ、また、実施する安全衛生対策の周知徹底と水平展開を図っています。そのため、安全衛生委員会が形骸化しないよう随時活性化を心がけ、さらに安全衛生スタッフの整備と育成を行っています。

安全対策

労働災害の防止を目的としてリスクマネジメント（危険の予知とその予防対策実施）の確立を目指しており、2005年度は①外部専門機関の安全診断実施による危険因子の排除②車両に「安全ブック」を常備し交通安全意識の喚起と事故発生時の適切な対応の徹底などの安全対策を行いました。

防災対策

大規模地震の発生が懸念されている状況のなか、更なる防災体制の整備が急務となっていることから、2005年度は発生時対策として①緊急連絡網の整備 ②避難経路図の作成 ③事業所間ホットライン設置 ④緊急用対策用品及び備蓄品の充実などを行い、予防対策として ①建物耐震診断 ②棚・ロッカーの転倒防止対策などを行い、防災対策の充実を図りました。

衛生・快適職場づくり

職場の衛生環境の改善は各自の意識に依存する部分が大きいことを認識した上で、安全衛生委員会を通じて従業員へ「快適職場は自分達で創る」という参画意識の醸成を図るとともに、2005年度には①6S活動の徹底②危険物・有機溶剤の保管・取扱ルールの徹底などの対策を行いました。

健康増進

全従業員を対象に年1回の健康診断を実施しており、検診項目やフォローアップなどの充実に力を注いでいます。また健康の維持・増進及び生活習慣病の予防を目的として、「ウォーキングキャンペーン」「禁煙キャンペーン」「健康教室」などを実施するとともに、メンタルヘルスについても外部機関と提携し、従業員が相談しやすい体制を整えています。

社会貢献

ペンタックスは、経営理念に「共存共栄」を掲げ、社会に調和していくこと ――― 。
また、事業活動を通して新しい価値を世の中に提供していくこと ――― 。
私たちが提供する製品を通して皆様の豊かな生活を実現することが、私たちができる最も大きな社会貢献であると考えています。

製品を通した社会貢献

『お客様が望むものを望む時に、提供できる会社』が私たちのヴィジョンの一つです。

ライフケア事業分野においては、超小型のCCD及び撮像レンズを内蔵した電子内視鏡により体内の診察をリアルタイムに行い、検査の効率を格段に向上させることにより、「ドクターの負担を減らし、患者さんの苦痛をなくす医療機器」の開発を行っています。

地域との融合

地域の皆様との協働作業を通じて交流を深め、地域の皆様に信頼され、愛される会社を目指しています。

いたばしボランティア・フェスタ

みどり祭

いたばしボランティア・フェスタ（2005年5月）	ボランティア活動への「理解」と「参加」の促進に向け、毎年開催している「いたばしボランティア・フェスタ」に初参加。環境活動・ボランティア活動の展示を行うとともに写真撮影及びプリント無料サービスを実施。
板橋区立特別養護老人ホームみどりの苑「みどり祭」への参加（2005年5月）	環境活動の展示を行うとともに写真撮影及びプリント無料サービスを実施。
小川・七夕祭りへの参加（2005年7月）	埼玉県小川町で恒例となっている七夕祭りを毎年後援、プロカメラマン指導による「モデル撮影会」を実施。
楽・市・道への参加（2005年4月／8月）	首都高速5号線高架下スペースを利用したイベント「楽・市・道～めざせ！高速下町～」にも協賛。プロカメラマンによる当社のデジタル一眼レフカメラを使ったペット撮影コーナーを設置。
市民社会をつくるボランタリーフォーラムTOKYO（2006年2月）	東京ボランティア・市民活動センター主催の「つなぐ・つながる・つなぎあう」をテーマとした「市民社会をつくるボランタリーフォーラムTOKYO2006」へ協賛。
第4回ボランティア・市民活動コーディネートセミナー（2006年1月）	東京都板橋区ハイライフプラザいたばしにて社会福祉法人板橋区社会福祉協議会が主催する「第4回ボランティア・市民活動コーディネートセミナー」に講師として参加。

災害支援活動

国内外のさまざまな災害に対して会社と従業員が一体となり支援を行っています。

米国ハリケーンカトリーナへの支援（2005年9月）	2005年8月末米国南部に上陸した大型ハリケーン「カトリーナ」による洪水被害に対し、ペンタックス(株)及びペンタックス オブ アメリカ インクから義援金を赤十字社へ、また従業員から募った義援金を被災にあわれた海外現地法人の従業員に寄付しました。
パキスタン大地震への支援（2005年11月）	2005年10月に発生したパキスタン北部での大地震被害に対し、日本商工会議所を通じ、会社として義援金を寄付しました。

収集ボランティア活動

使用済みプリペイドカード、使用済み切手、書き損じハガキを回収して、福祉団体などへ寄付しています。それらは開発途上国への医療支援、地球上の緑の保全・再生、砂漠化防止及び環境保護の推進などの活動に役立てられています。

工場見学の受け入れ、体育館の開放

当社は、工場見学の受け入れを行うとともに、地域住民や各団体に体育館を開放しています。

写真文化の発信

ペンタックスは、さまざまなステークホルダーの皆様との交流を深めるために、いろいろな取り組みを行ってきました。その最も代表的な取り組みは写真文化を発信し続け、そのすばらしさを皆様と共有することです。ハードのみならずソフトの領域においても、皆様の毎日の暮らしの中で、より多くのかけがえのない瞬間をつくるお手伝いをしていきたいと願っています。

ペンタックスファミリー

機関誌「ペンタックスファミリー」

ペンタックスファミリーは、ペンタックスカメラ愛用者のための全国的な写真クラブです。

年4回発行の機関誌「ペンタックスファミリー」と年1回発行の「ペンタックス写真年鑑」などの発行物や、撮影会、写真セミナーといったイベントを通じて会員の皆様との交流を果たしています。また、これから本格的に写真を始めようという方のためにオリジナルの写真テキスト「林檎の秘密」「林檎の秘密DIGITAL」をご用意し、そのテキストを使ったフォトスクールやセミナーも随時開催しています。さらに、修理費用の割引や特別価格でのイベント参加などの充実した特典によりお客様の写真ライフをバックアップしています。

ペンタックス「幻想の世界　冬の青森・秋田」撮影ツアー

第34回ペンタックスファミリーサロン授賞式

ペンタックスフォーラム

ペンタックスフォーラムは、新宿新都心、都庁・京王プラザホテル・新宿住友ビルなどの高層ビル街の中央に位置する新宿三井ビル1階にあります。

写真文化の向上を目指し、ギャラリースペースでは作家と写真愛好家とのコミュニケーションの場を設け、また、自由にカメラ・レンズに触れられるショールーム、点検や修理を承るサービスセンターの3つの機能が有機的につながる総合コミュニケーションスペースとなっています。

大阪ミニギャラリー

大阪市中央区にあるミニギャラリーは、写真スペースを開放して個人やグループ展などに無料で提供しています。また修理や点検などメカニカルなサービスも提供しています。

カメラ博物館

ペンタックスカメラ博物館は、世界のカメラの銘機を集めて展示しているカメラ博物館です。

1967年に「ペンタックスギャラリー」として東京都港区西麻布に開館後、現在は、栃木県益子町の事業所内に「ペンタックスカメラ博物館」として移管され、数千台の所蔵品の中から、約1,000台のカメラを常時展示しています。

毎年約3,000人の見学者が訪れ、特に年2回開かれる益子陶器市の時には多くの見学者が訪れます。

写真発明当初の銀板写真から現在までの目覚しい発展をとげてきた写真の歴史を広いスペースでごゆっくりご覧いただけます。

雇用・人権

ペンタックスは、従業員一人ひとりの人権を尊重し、
また誰にでも働きやすい職場環境の提供を目指しています。

人材採用、登用、活用の考え方

人権尊重

ペンタックスは、一人ひとりの人権を尊重し、多様な個性や価値観を大切にすることにより、従業員の能力が最大限に発揮できる職場環境を目指しています。求人、雇用、昇進など、あらゆる局面において、学歴・性別・信条・障害などを理由とした差別を行わないことを基本方針とし、今後とも人権尊重、機会均等の推進に取り組んでいきます。

人事制度

ペンタックスは、役割と成果を基本とした人事制度を導入しており、社会情勢の変化に合わせ、より良い人事制度を目指して見直しを行っています。学歴や年齢などにとらわれず、与えられた役割と仕事を通じて生み出された成果によって、公正な処遇と人材の登用を行い、より健全な企業風土の実現を目指しています。

教育制度

企業活動の源泉は人にあり、個人が成長してこそ企業が成長するという考えのもと、当社は従業員の育成には時間とエネルギーをかけて、目的にかなう人材を創造していかなければならないと考えています。21世紀の企業に課せられた経営のあり方は製品の人気や収益の追求だけではなく、環境やコンプライアンス、無形資産などのソフト面の重要さをも追求していかなければなりません。そして当社は、最終的に企業も個人も、それらの価値の創造により社会に貢献することで“自己実現”を目指しています。

企業の中で人が成長するためには、＜意識＞＜知識＞＜経験＞という3つの領域でバランスよく能力を伸ばすことが重要です。そのため、当社はこの3つの側面を踏まえ、入社時から継続して従業員の能力開発をサポートするシステムを提供しています。

主な研修制度

名 称	概 要
新入社員研修	オリエンテーション研修、生産実習、営業実習など
メンター制度	新入社員を対象に先輩社員が指南役として支援する
職種別研修	営業・スタッフ研修、技術研修、技能研修
ビジネス研修	会計財務研修、分析手法研修、問題解決研修、ロジカルコミュニケーション研修、マーケティング研修
キャリア研修	3年次研修、中堅社員研修、シニア社員研修など

セカンドキャリアパートナー制度（再雇用制度）

定年退職を迎える従業員に対し、就労機会の提供とこれまで蓄積してきた様々なスキル・ノウハウを有効に活用するため、2006年4月より、セカンドキャリアパートナー制度（再雇用制度）を導入しました。これにより、60歳定年を迎えた従業員で引き続き勤務を希望した方については、会社もその必要性を認めた場合、再雇用されることが可能となりました。

働きやすい職場環境の提供

ALL PENTAX 小集団活動発表会

育児・介護支援

育児・介護休業法及び次世代育成支援対策推進法に基づき、育児・介護を行う従業員の職業生活と家庭生活の両立が図れるよう様々な支援を行っています。

- 所定外労働の免除
- 1日について2時間を限度とする勤務時間の短縮
- 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ（2時間以内）
- 育児サービス費用補助
- ノー残業デーの実施

職場の活性化／小集団活動

小集団活動は活発に行われており、ペンタックスグループ全体で年間約2万5,000件の改善提案が提出されています。また、各社においてグループによる職場改善活動も行われ、その優秀なグループは、毎年、多くの従業員が参加する「ALL PENTAX 小集団活動発表会」において、日頃の活動成果を発表しています。特に優秀なグループについては表彰を行っています。

第三者意見

「環境・社会報告書2006」を読んで

経済の好調の中にも企業の不祥事に関する報道が多くなされている現在、我々を本当に豊かにする企業のあるべき姿とは何かが、社会的責任という言葉で問われています。

環境・社会報告書としては2年目となる本報告書は、ペンタックスの環境活動と社会活動の内容が、それぞれグリーンとブルーの帯で整理されて、分かりやすい構成になりました。

環境活動では、目標と活動重点項目が明確に記載され、成果を数字で示す努力が認められます。実績に支えられた自信と決意が、巻頭のトップメッセージから具体的に伝わってくることも大きな前進でしょう。社会活動に関する記載は環境活動に関するものと独立し、グローバルなコンプライアンスへの取り組みをはじめとする充実した成果を裏付けています。

“あなたの大切で貴重な瞬間のために”というスローガンは、ペンタックスの社会活動と環境活動において、どのようにステークホルダーに展開されていくのでしょうか。日常の仕事や生活において、経営理念の唱うCSRに対する役割と責任が、本報告書を目にする様々な人々の環境と社会への思いを想起させ、本当の豊かさを実現する活動へと向かうことを願ってやみません。

武蔵工業大学　工学部システム情報工学科
助教授
環境経営学会サステナブル経営格付評価委員
工学博士　熊谷　敏

社外からの評価

- ★ 2005年　4月　オランダ消費者団体（Consumentenbond ）CSRアンケート調査 フロントランナーに選出
- ★ 2005年 12月　日本経済新聞社　第9回「企業の環境経営度調査」181位／588社
- ★ 2006年　3月　日本経済新聞社　第13回「企業評価システム・プリズム」415位／1,033社

沿革（主に環境関連）

1993年	10月	旭光学工業（株）（現ペンタックス（株））環境保全推進室設置
1993年	12月	旭光学工業（株）（現ペンタックス（株））地球環境憲章制定
1996年	4月	旭光学工業（株）（現ペンタックス（株））環境理念制定
1997年	1月	旭精密（株）（現ペンタックス インダストリアル インスツルメンツ（株））ISO14001認証取得
1997年	12月	本社、益子事業所ISO14001認証取得
1998年	1月	小川事業所（現ペンタックス オプトテック（株）小川）ISO14001認証取得
1999年	3月	国内生産関係会社の特定フロンの使用を全廃
2000年	10月	ペンタックスグループ環境方針制定
2001年	6月	本社環境保全活動に対し、板橋区より「板橋区環境保全賞」を「環境マネジメント部門」で受賞
2002年	8月	オプティカル テクノロジー デパートメント（現ペンタックス オプトテック（株）小川）土壌・地下水浄化対策スタート
2002年	9月	コーポレートスローガン「for your precious moments」制定
2002年	10月	社名を旭光学工業株式会社からペンタックス株式会社へ変更
2002年	10月	国内生産関係会社の塩素系有機溶剤の使用を全廃
2003年	4月	本社環境保全活動に対し、板橋区より「板橋区環境保全賞」を「環境美化部門」で受賞
2003年	10月	海外生産関係会社を含め塩素系有機溶剤の使用を全廃
2003年	12月	ペンタックス セブ フィリピン コーポレーション ISO14001認証取得
2004年	1月	ペンタックス VN カンパニー リミテッド ISO14001認証取得
2004年	2月	デジビノ DB200（デジタルカメラ機能付コンパクト双眼鏡）エコリーフ登録
2004年	4月	ペンタックス宮城（株）（現ペンタックス東北（株））、ペンタックス山形（株）（現ペンタックス東北（株）山形工場）、ペンタックス福島（株）上記三事業所はペンタックスグループEMS監査により登録
2004年	4月	第1回ペンタックスグループ環境会議（北米、欧州現地法人代表を含めたグローバル会議）開催
2004年	5月	環境報告書2004発行（初版）
2005年	1月	ペンタックスグループ「グリーン調達ガイドライン」制定
2005年	3月	*ist DS（デジタル一眼レフカメラ）エコリーフ登録
2005年	4月	香港實得有限公司　ペンタックスグループEMS監査により登録
2005年	6月	環境・社会報告書2005発行
2005年	7月	ペンタックス オプトテック（株）設立
2006年	4月	第5回ペンタックスグループ環境会議開催
2006年	6月	環境・社会報告書2006発行

編集後記

今回の「環境・社会報告書2006」は環境活動に加え、企業活動における社会的側面に関するページを増やし、内容を充実させました。難解な表現を避け、専門用語には注釈をつけ、極力読みやすい分かりやすいものを心がけました。少しずつ進歩した、私たちの活動のすべてを皆様に知っていただけるように考えました。

皆様の忌憚のないご意見、ご提言をお待ちいたします。

「環境・社会報告書2006」制作ワーキンググループ

郵送先 ：〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9
ペンタックス株式会社　CSR推進部
ＦＡＸ ：(03)3960-4504

お送りいただいたお名前、年齢、ご住所、お電話番号などの個人情報は、今後の取り組みや報告書づくりの参考とさせていただく以外の目的で使用することはありません。
個人情報のお取り扱いの詳細については当社HPに掲載しています。